
ブルーシング

えせん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ブルーシング

【Nコード】

N0728BA

【作者名】

えせん

【あらすじ】

僕が高校時代より趣味で書き溜めていた詩をいくつか紹介します。

ホロウポップ

ここには何も無い
ただ這いつくばって呼吸を試みた
ここでは眠れない
ただまぶたを閉じて耳を澄ました

真つ暗な闇の底から聞こえたのは
僕の鼓動と君の鼓動
空っぽな身体の中が
淡く熱くはじけた

さあ、歌ってあげよう
霞んで見えない空を見上げ
さあ、叫んだ言葉で
地面を激しく蹴っていけ

高く飛び出すのは誰だ？

ここには星がない
ただわからないまま明日に進んだ
ここでは笑えない
ただ涙をこらえて声をぶつけた

真つ白な部屋の空気、響いている
僕の愛撫と君の喘ぎ
汗ばんだ身体の奥で
甘く熱くはじけた

さあ、踊り狂おう

淀んで崩れる街の真ん中

さあ、もがいて吐いて

適度な想いを貫けよ

夢を見下すのは誰だ？

さあ、殴り飛ばそう

何だっていいさ壊せるものは

さあ、すべてを露あつわに脱だぎ捨て
走り出せばいいよ

未来を砕くのは誰だ？

ホロウポップ（後書き）

作：2004.4.12

タカラモノ #2 胸にハート秘めて

束の間の幸せでも
それは確かな喜びで
僕が君を愛していた
十分な証になるだろう

何気ない日々過ごしていたのに
重く降りだす雨は
すべて洗い流していった

小さな地球で小さなこの僕らが
出逢った奇跡も

今はひとつの記憶で
君にあげたハートの首飾りも
あの日深くにしまい込んだ

真っ白な部屋の隅で
埃をかぶったままの
ふたりが寄り添う写真
君がむじゃきに笑っている

もしあの頃に還れるなら
もう一度だけ君を
強く強く抱きしめたい

何も言わずこのままいつてしまうの？
静かに目を閉じた君の頬は冷たく
窓の陽射し

照らされ光る涙

決してこぼさないと誓ったのに…

やがてきらめく夜空に生まれた星
君が笑ってる

どこかそんな気がした

約束しよう、君のこと想い続ける
ハートのタカラモノ、胸に秘めて

タカラモノ#2胸にハート秘めてゝ（後書き）

作：2002・10・10

ハローハロー

優しい午後の日差し
僕は部屋にひとり
窓の外を眺めて
観ているのは頭の中

頬杖をついたまま
言葉は置き去りに
昨日の僕を連れて
明日の僕をのぞいた

遠くの声、近く之音
相手にしない、うわの空

ハローハロー
そちら調子はいかがですか？
ハローハロー
なんだか心、クモリのちアメ。

時間に浸ってからふと立ち上がった
冷蔵庫の奥に
真っ赤なリンゴひとつ

おもむろに齧^{かじ}りつく
少しまだ甘酸っぱい
明日の僕にはもう、たぶん味わえない

甘い夢と渋い日々

逃げ出せない、はさみうち

ハローハロー

そちらまだまだ歩けますか？

ハローハロー

どうやら足がゲンカイみたい、

大事なものの、宝物

部屋の片隅、落としもの

ハローハロー

そちらこれからどうしますか？

ハローハロー

とりあえず今は、明日を待つよ

ハローハロー（後書き）

作：2004.8.16

G

夢うつつ、見た光

湧きあがるものは何？

軽くなる感覚がどこもなく水のよう

いつそ裸になつて溶けてしまえば

日々の何もかもから離れられる

もつと速くなお高く

光の奥に飛び込もう

最高に立ち上がれば

気持ちのリミッター振り切れる

駆けめぐる視覚から

抑えきれぬ感情で

愛の種育ててく

より強く大きくと

遠慮はいらないんだ

目を閉じて

さあ現実を気にせずに

駆け抜けてゆけ

さらけ出して本能を

恥ずかしいなんて野暮でしょう

普段おとなしい人も

隠しているのは淡い“G”

ひとつ残らず全部吐いてしまえば
後味はちよつとしたムナしさだけさ

詰まるところ人はみな
交わる場所を探している
はじけることに一番
幸せを感じるから

G (後書き)

作 : 2004 . 8 . 18

この世が四角く見えた日

せまい地球の上に命つてものがあつて
たくさん生き物が動きまわってる

そんな世界この街

人々がひしめいて

億万の出会いのもと僕が生まれた

流れゆく時の中

絡まり合い繋がって

幸せや不幸とか持ちきれないだろう

運命を信じるかい？

愛を見つけられれば最高の事件なのに

この世はクール

君のその笑顔は一生一番の幸せで

初めての大ニュース

それでも惑星^{ほし}はまわる

今日も陽が昇る

宇宙は広すぎて

人はちっぽけすぎて

どんなに笑つてもどんなに苦しんでも

たった一つだけの小さな小さな変化

どこか素敵で儚い

ロマンティックだね

僕のこの想いは一世一代の覚悟

最初で最後の失敗

それでも宇宙は静か
今日も陽が沈む

彼が出した答え
もう元には戻らない大きいはずの出来事
それでも惑星はまわる
今夜も月はキレイ

この世が四角く見えた日（後書き）

作：2004.8.24

D A R K × D A R K

この世の無情に気付いて何が変わった？
同じ繰り返しでバカみたいだ
無駄に上等なテクノロジー氾濫する
今の時代にはどうも合いそうにない

くだらぬ流行に喰らいつこうと走ってる
哀しい人間の行動が風潮を決める
不器用な奴らの劣等感つくるのさ

ああ
夢を掲げようって道を歩いてたって
いつ踏み外すかもわからない

ああ
最後まで頑張れって正論振りかざしても
そんな強いココロばかりじゃない

器用でズル賢い者達だけの世界
同じ繰り返しが生み出す憂鬱
うわべだけの愛で紡ぐ恋人もどきの
慰め合いはどこか美しきかな

毎日猿みたいにオナっては気を紛らわし
誰かを殴りたい衝動を必死に抑え
苦し紛れの独り言つぶやくのさ

ああ
チヨンマゲの時代は今よりマシなのかな

想像膨らまし現実逃避行

ああ

逃げたらダメなんだって偽善悠々語っても
ホント辛い人にはおめでたい

戦争、闘争、競争

人間の本能、奔走

平和、愛、正義

しょせんは理性、蹴落としていけ

ああ

首を跳ね飛ばしたら

噴き出す血を浴びる快感に狂ってみたりして

ああ

君を抱き寄せたなら淫^{みた}れ合いキスをして

コトバタクミナ歌を聴くの

ああ

なんちゃって価値観がこんなに違うから

複雑なパズルに当てはまらない

ああ

何もかも捨てられれば最高の幸せね

真っ暗闇に溶けてしまえ！

D A R K × D A R K (後書き)

作：2004.9.13

青風船のメランコリー

青い風船膨らみすぎたよ

破裂したなら血が吹き出すよ

だから時々夕暮れの空

見上げて一縷いちるの砂糖を探す

けれども踊る金平糖こんぺいとうたち

どれ一つとしてトゲトゲしいの

同じ場所では笑わないから

そこにはまるで地獄があつた

もはや zen zen 車は進まない

ガソリン切れのヘタレカーなんだ

心 sick sick 溢れてくる涙

朝を迎えて道を外れていた

赤い爆弾、裏も表も

爆破したならぜんぶ消えそう

そしていつかは真っ暗な空

溺れ本能の雷走いかずちる

けれども今は間抜けな蛇が

自分の首を絞めるばかりで

この道の先墓場があるから

骨を集めてバーベキューしよう

いまや zen zen 頭は回らない

息を切らしたメリーゴーラウンド

心 s i c k s i c k 流れ落ちる涙
夜を迎えて僕は死ぬんだよ

心 s i c k s i c k 溢れてくる涙
朝を迎えて道を外れて

心 s i c k s i c k 流れ落ちる涙
夜を迎えて僕は死ぬんだよ

僕は塵になる

青風船のメランコリー（後書き）

作：2007・6・20

黄昏のくちづけ

夏の日の夕焼け染まる

放課後 教室の端

僕は一人、窓際の席

黄昏 街 眺めていた

頬杖とため息まじり

考えてたことなどなく

空っぽの胸の奥には

たった一握りの砂

不意に開いたドアの向こうに

「待った？」と笑う彼女がいて

僕は首を振り立ち上がる

君と2人教室を出る

登る登る…屋上に続く

階段を一步一步

「本当にいいの？」と問いかけた

君は呆れたように笑い

も一度強く頷いた

屋上の風は優しく

暖かく僕らを包む

フェンス越しに見渡せる街

確かに僕らそこに生きて

いつか2人は出会った

奇跡 奇跡 繰り返す日々
2人の気持ち重なる
手首に残る幾多の
傷跡が思い出語る

柵を越え手を握り締め
空を仰ぎ息を吸い込む
やがて見つめ合う君と
触れ合うふわり唇
甘くかわいた感触
いつまでも残っていた

誰に向けた言葉でもなく
「さよなら」は小さく漏れて
2人繋いだままの手 離さずに
鳥になった 風になった

赤く赤く 染まっていく
黒く黒く 光は消えて
白い白い 雲は流れ
青い青い 空も消えた

黄昏のくちづけ（後書き）

作：2008.2.8

ブラックエンブルー

一般論という鳥カゴの中で
餌をついばむだけの日々を繰り返す
重圧的な価値観を押しつけられて
細い体はミシミシと軋んだ

気づかぬうちに羽は失くな^なっていったんだ
付け根から丸ごと奪い取られたように
もし主に逆らい捨てられたとしたら
さあ どうしよう、行き場のない僕？

BLACK & amp ; BLUE
鳥カゴの下遥か深い闇が広がっている
生き延びるためには落ちないよう
空を飛ぶための翼がいるのさ

そもそも僕の明日はどこにあるのだろう
うつろな眼差しが宙を探している
瀕死の心を侵食するネバつきには
理屈も飲み込まれてしまうようね

BLACK & amp ; BLUE
床も壁も手足も酷い汚れがこびりつき
襲いくる強迫が過ぎる時間を
意味のない世界に変えてゆくんだ

いつも望むことは大したものじゃない
素直な理解とシンプルな愛でいい

ただそれだけ

ねえ 運命の創造主

「普通を求めちゃいけないのかなあ？」

B L A C K & a m p ; B L U E

鳥カゴの下遙か深い闇が広がっている

生き延びるためには落ちないよう

空を飛ぶための翼がいるのに

B L A C K & a m p ; B L U E

手を伸ばしてみるから

僕をここから連れ出してよ

「助けて」という言葉叫び続けたって

疲れてしまえばかりだからねえ

ブラッケンフルー（後書き）

作：2007・9・4

D A R K × D A R K 2

頭の上にあるステレオじゃ
愛や恋をひたすら叫んでる
こんなはずじゃなかったのさ
空想、妄想が一人歩き

お前を背中におぶってから
急激に道がキツくなったよ
恐ろしく長く感じられる時間の波に
頭抱えて

そんなにほしいならくれてやるぜ
ボロボロに破けた魂をな

太陽が青く見えた？
そりゃ錯覚だぜ
奴はいつだって空で笑って
俺たちを見下してんだ
楽しんでんだ

お前を手放してしまつてから
急転直下 転がり落ち始め
哀しくも危険と噂される
スラム街に息を潜めて

そんなに反応がほしいならば
殴ってやるさ、そう何発でも

月が真つ赤に燃えた？

そりゃ滑稽だぜ

奴はいつだつて空で嘲って

俺たちを侮蔑してんだ

哀れんでんだ

道化師のカウントダウン

さあ数えろ 3 , 2 , 1

そんなにほしいならくれてやるぜ

ボロボロに破けた魂をな

太陽が青く見えた？

そりゃ錯覚だぜ

奴はいつだつて空で笑って

俺たちを見下してんだ

楽しんでんだ

脳天に B A N G !

DARK × DARK 2 (後書き)

作：2009.9.1

ハート オブ アート

ある画家が描いた一枚のこの絵を
じつと目を凝らしてみても

何が見えるだろう

黒と白が織り成す空と海の世界

やがて2つは交じり合い

鳥は魚に還る

彼が創る光と闇は

僕らの胸に幻想を映す

この世界中に溢れてるたくさんの夢の花が

奥深くに隠し持った答えの意味

手探りで見つけよう

寂しげにうつむく「考える人」の像が

地獄を見下ろす姿だと

あなたは知っていますか？

ロダンが何を伝えようとしたか

その想いに耳を傾けてみてさ

流れる歴史のその中で生み出された夢の花が

僕らに訴えかけている言葉の意味

手を伸ばして感じて

恐怖さえのもぞきも、悲しげな微笑みも、
水面に映る街並みも、あたたかな母の愛も、

激しい苦悶と怒りに壊れるほど泣く女も
それぞれが語りかけている心の意味
この宇宙へ届けよう

ハート オブ アート（後書き）

作：2002.7.15

休日ハラフに

お気に入りのジーンズに履き替えたら
自転車で晴天へ繰り出そう
小道往く散歩中の仔犬に
手を振って追い風を共にしよう

丘の上から眺める海は今日も
粉砂糖散りばめたように輝いてる
潮風からのお誘いにのったら
一気に坂を下ろう

休日はラフにいかなきやね
行き当たりばったりで
いつものような予定まみれの
息苦しさは捨てて
マイペースに走っていこうよ
力まずペダルこいで
それくらいがちょうどいいんだよ

少しだけ一休みしていこう
街角の小さな喫茶店
アイスティーの氷の鳴る音が
心地よく体に元氣くれる

陽射しのカーテンあまりに優しいから
眠たくなるけど眠っちゃもったいない
お店を出たら再び自転車に乗り
ゆっくり走り始めよう

休日のラフな雰囲気は街にも溢れてる

木漏れ日の揺れる公園では

親子がキャッチボール

腕を組み歩くカップルの横を追い越したなら

信号に引っかけたよ

郵便局の角を曲がればあとは一直線だ

丸い水平線に浮かぶ

小船たちが見渡せる

潮の香りが手を引っぱって

砂浜に連れ出した

足の裏がちよつと熱いかも

休日はラフに（後書き）

作：2008.8.18

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0728ba/>

ブルーシング

2012年1月10日23時45分発行